



第29回 全国児童生徒 企画展 地図優秀作品展



国土交通大臣賞受賞作品「点字ブロックから考える私の街の住みやすさ」

CONTENTS

1. 新年の御挨拶	2
2. 令和8年度組織・予算案及び令和7年度補正予算(第1号)の決定	3
3. 「第29回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催 —全国の優秀作品から「国土交通大臣賞」「文部科学大臣賞」「審査員特別賞」を決定—	5
4. 「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数	7
5. 12月の報道発表・2月の主な行事予定	7



国土地理院長 かわすみ かずしげ 河瀬 和重

年頭に当たり、御挨拶申し上げます。

「測量」という言葉は、古代中国の『測天量地』に由来するとされており、「【天】を観【測】し、土【地】を計【量】する」という意味合いであると承知しています。一昔前では象限儀・羅針盤や間縄等を用いた“天文観測と地上観測”がハイブリッドになった“土地丈量”が実施されていたわけですが、本年は、自然・人工の差はあれど、天体や衛星の観測による量地が主流となる「本格的な宇宙測地の時代」の幕開けとなるのではと思っています。

その背景として、昨年4月から衛星測位を基盤とする標高の仕組みへの移行を行ったことに加え、我が国独自の衛星測位システムである準天頂衛星システム「みちびき」の7機体制が構築されることにより我が国において自律的な測位サービスが実現します。みちびきの新しい信号であるL1C/B信号について、測位・測量に使用しても問題ないことが確認されたため、電子基準点で受信したデータの公開を昨年12月から開始しており、当該信号が受信可能となる点も増加していくものと思います。

また付加的なことですが、潮位を観測する験潮場について、標高体系の移行により油壺・田後・沖縄を残し昨年末をもって観測終了としたことも象徴的なことです。さらに本年4月からは、電子基準点について、座標値の見かけのばらつきが低減するなどの効果を見込んで、最新の世界的な国際地球基準座標系ITRF2020に対応するなど、解析設定の一部を変更した新しい「電子基準点日々の座標値」への更新を予定しています。

このように、衛星測位をメインとした測位・測量は着実に実施のための環境が整えられつつあります。国土地理院では、こうした環境を更に盤石なも

のとし、国民の皆さんが安心して利活用できるよう磨きをかけていきたいと考えています。

一方、地図作成については、本年1月末に電子地形図50000の全国完成を目指して作業を進めています。この全国揃った新しいコンテンツを用いて、様々なシステムの基幹コンテンツとして使われている地理院タイルについて、特に情報量が疎である中小縮尺タイルをより情報量の豊富なものに置き換えていく取組を進めていくことを画策しています。常日頃の情報更新を進めつつのタイル置換えとなるため、なかなか骨の折れる作業となりますが、本年後半のリニューアル公開に向け鋭意作業を進めてまいります。

また、電子国土基本図の3次元化については、既に昨年3月末に試作データを公開していますが、この間関係各位から頂いた御意見を取り入れつつ、本年3月末に一部地域について公開を開始します。初回の公開範囲は微々たるものになるかもしれませんが、令和10年度末の全国整備に向け、着実に歩みを進めていく所存です。

他方、本年は第4期の地理空間情報活用推進基本計画(令和4年度から令和8年度まで)の最終年度に当たり、次期基本計画の策定を本格的に検討していく年になります。現下の状況として、少子高齢化・人口減少による労働人口の減少に加え、頻発化・激甚化する自然災害への対応に向け、社会基盤として活用の進む地理空間情報について、AIや3次元技術などを駆使して一層の生産性向上を図ることが求められていると認識しています。

そうした中、災害対応や各種経済活動の基盤となる国土情報基盤の整備・更新・共有の必要性を改めて痛感しているところです。さらには、国家安全保障やセキュリティを意識しつつ、人材育成・確保や国際協力・国際展開といった、将来を見据えた投資も必要です。特に地理空間情報の活用推進を担う将来の担い手となる人材育成・確保については、産学官の英知が必要であり、関係の皆様方の引き続きの御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、本年が皆様にとって平穏で幸せな年となりますよう祈念し、年頭の御挨拶とさせていただきます。

令和8年度組織・予算案及び令和7年度補正予算(第1号)の決定

●組織

政府は、令和8年度組織の政府案を令和7年12月26日の閣議で決定しました。

◎令和8年度組織案

令和8年度における国土地理院の組織整備については、測量法改正を受けた測量資格制度事務の体制強化及び公共測量の効率化のための一体的な組織再編、衛星測位基盤整備・国土強靱化に関する事務の体制強化、サイバーセキュリティの推進における危機管理に係る体制強化のため、次の組織要求が認められました。

○企画部

- ・「測量資格制度課」
- ・技術管理課:「課長補佐」「専門職」「公共測量係」「助言審査係」「統計調査係」

○地理空間情報部

- ・情報システム課:「情報危機管理係」

○測地観測センター

- ・電子基準点課:「基盤整備係」

※認められた組織の名称は仮称であり、変更の可能性あります。

●予算

政府は、令和8年度予算案を令和7年12月26日の閣議で決定しました。また、令和7年度補正予算(第1号)は令和7年12月16日に成立しました。

◎令和8年度予算案及び令和7年度補正予算

国土地理院の令和8年度予算は、約88億円となっています。また、令和7年度補正予算(第1号)は、約59億9千万円となっています。(別表参照)

防災・減災、国土強靱化の推進はもちろんのこと、日頃の社会・経済活動においても様々な分野で活用が期待される国土情報基盤を着実に整備・更新・維持管理し、正確性・最新性を確保する取組を進めるため、令和8年度予算では、令和7年度補正予算と合わせて、国土を「測る」、「描く」、「守る」、「伝える」の4つの役割を通じて、以下を重点的に取り組みます。

【測る～位置の基準を定める～】

○宇宙測地技術を用いて、地球及び国土の計測・決定、モニタリングを行い、測位結果と地図を整合させ、高精度な基準点の位置情報等を整備・提供します。

○測量・測位基盤の維持管理に必要な電子基準点の観測・解析の安定運用に向けた対策及び耐災害性の強化を実施します。

(令和8年度予算額7億1百万円
令和7年度補正予算額19億5千万円)

【描く～国土の地図を作る～】

○AI等を活用し効率的に空中写真撮影を行い、デジタル社会の基盤となる電子国土基本図を更新するとともに、整備した高精度標高データを用いて、国土全域の3次元地図の整備を進めます。また、迅速かつ効率的な電子国土基本図の整備のため、AI等を活用して地図データの整備を自動化する技術開発等を実施します。

(令和8年度予算額12億4千8百万円
令和7年度補正予算額7億2百万円)

【守る～日本の国土を守る～】

○防災・減災対策に必要となる地理空間情報を整備・提供するため、地殻変動を監視するための観測・解析や地理的条件に基づく災害リスク情報等の整備、測量用航空機による機動的な被災状況の把握を実施します。

(令和8年度予算額6億1千6百万円
令和7年度補正予算額30億4千5百万円)

【伝える～国土の姿を伝える～】

○地理空間情報の流通を促進し、災害への備えなど様々な目的での利活用を進めるため、地理空間情報ライブラリーを安定的に運用します。また、整備された3次元地図について、安定的に閲覧するためのデータ整備と環境整備等を実施します。

(令和8年度予算額1億6千8百万円
令和7年度補正予算額3千万円)

(別表)

■令和8年度国土地理院関係予算

(単位：百万円)

区分	令和8年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	対前年度 倍率 (A/B)	令和7年度 補正予算額
1.国土を測る	<u>701</u>	<u>763</u>	<u>0.92</u>	1,950
うち・測量・測位基盤の維持管理	701	763		33
・電子基準点の観測・解析の安定運用に向けた強化	0	-		90
・国家座標の時間管理に向けた地殻変動補正情報の高度化	0	-		65
2.国土を描く	<u>1,248</u>	<u>1,224</u>	<u>1.02</u>	702
うち・3次元地図情報整備	692	715		529
・AI等を活用した空中写真撮影	453	410		0
・高精度標高データ整備	102	98		0
・AI等を活用した地図作成の効率化に向けた技術開発	0	-		94
・電子国土基本図3次元情報管理装置の開発	0	-		79
3.国土を守る	<u>616</u>	<u>630</u>	<u>0.98</u>	3,045
うち・地殻変動等調査	219	235		0
・防災地理調査	111	101		1,475
・海外衛星SARも加えた地殻変動監視の迅速化	0	-		21
・衛星データを用いた災害時の迅速な地形変化等把握に関する研究	18	-		0
4.国土を伝える	<u>168</u>	<u>175</u>	<u>0.96</u>	30
うち・地理空間情報ライブラリー推進	119	125		0
・ウェブ最適化による3次元地図情報の利用推進	0	-		30
5.測量行政の推進 等	<u>674</u>	<u>648</u>	<u>1.04</u>	165
うち・担い手確保に向けた測量資格制度の検討	18	-		0
・測量行政のDX	0	-		165
小計	3,407	3,440	0.99	5,892
6.国土地理院の運営に必要な経費	<u>5,395</u>	<u>5,139</u>	<u>1.05</u>	100
合計	8,802	8,579	1.03	5,992

※ 区分の内訳は主なものを記載している。

※ 計数は端数処理の関係で合計した額と一致しない場合がある。

※ このほか、デジタル庁一括計上分として令和8年度予算額351百万円及び令和7年度補正予算額139百万円がある。

※ 上記計数には、第1次国土強靱化実施中期計画分を含む。

(総務部)

「第29回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催

—全国の優秀作品から「国土交通大臣賞」「文部科学大臣賞」「審査員特別賞」を決定—

全国児童生徒地図作品展連絡協議会(事務局:国土地理院)は、「第29回全国児童生徒地図優秀作品展」に推薦された作品の中から「国土交通大臣賞」「文部科学大臣賞」「審査員特別賞」を選定しました。

第29回全国児童生徒地図優秀作品展(主催:全国児童生徒地図作品展連絡協議会、事務局:国土地理院)は、全国13地区の児童生徒地図作品展から推薦された優秀作品を一堂に集め、全国4会場で順次展示しています。

このたび、各地区から推薦された作品の中から優秀な作品として「国土交通大臣賞」「文部科学大臣賞」「審査員特別賞」を決定しました。また、奨励賞の10作品も選定しました。

●国土交通大臣賞

「点字ブロックから考える私の街の住みやすさ」

北海道札幌市立幌東中学校

2年 渡辺 ちとせさん



【作品主旨文】

登下校中に何気なく目にしていた「点字ブロック」。ですが注意深く見てみると様々な材料や形状があることに気が付きました。そこで実際に自分の街をくまなく歩き、点字ブロックの状態や種類について調査しました。さらに点字ブロックの観点から、自分の街が住みやすいかどうか考察しました。点字ブロックを使用しない人が使用する人に何ができるかを常に考え、他人事だと思わず行動することが一番重要だということを伝えたいです。

●文部科学大臣賞

「私の町・美保地区のちがいを探れ！」

～地図から見える3つの時代～

鳥取県鳥取市立美保小学校

6年 長谷 咲凜さん



【作品主旨文】

私の住む美保地区は暮らしやすく便利な町です。ある日お母さんが交差点の横をさして、「このあたりに昔スーパーがあったんだよ。」と言っていたので、びっくりしました。今と昔では、町の様子がずいぶん変わっているかもしれないと思い、公民館で明治・昭和などの地図を見せていただきました。田んぼや家などを色分けして見やすくなるよう工夫しました。美保地区を通る国道53号線は、江戸時代にお殿さまが通った街道だったことも分かり、町の歴史を学ぶことができました。これからも町の歴史を大切に、伝えていきたいです。

▼全国児童生徒地図優秀作品展のウェブページ
https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/29_jid_outizuannai.html

【展示場所・期間】

- ・地図と測量の科学館(茨城県つくば市)
1/4(日)～2/15(日)
- ・国土交通省1階展示コーナー(東京都千代田区)
1/6(火)～1/13(火)(終了)
- ・NHK大阪放送会館アトリウム(大阪府大阪市)
1/16(金)～1/19(月)(終了)
- ・科学技術館2階サイエンスギャラリー(東京都千代田区)
1/22(木)～1/26(月)

●審査員特別賞

「安芸高田市向原の泣き別れ分水界と分水嶺」

広島県広島大学附属中学校

1年 ^{なかた} 中田 ^{けい} 慧さん



[作品主旨文]

太田川はどこから流れてくるのか、上流の分水嶺を目指して自転車で向かった。向原にあった泣き別れ分水界は珍しい平地の分水嶺だった。立体地図を作ると三條川の河川争奪によって風隙ができ、平地の分水界になったことがよくわかった。工夫した点は河川争奪の様子がわかるよう昔と現在の川の流れを透明なフィルムで表現しています。実際に現地で分水標より北は江の川、南は太田川が流れる様子を想像するととても不思議な感じがした。

●奨励賞

「ペットフレンドリーなまち？ 有毒植物調査マップ～よもぎ台～」

愛知県南山大学附属小学校 5年 ^{こんどう} 近藤 ^{ゆき} 優希さん

「受けとって！水害の記憶～太子町の自然災害伝承碑を訪ねて～」

茨城県立日立第一高等学校附属中学校 1年 ^{しょうじ} 庄司 ^{あやの} 彩乃さん

「多摩市内のペットボトルリサイクルの取り組み」

東京都多摩市立多摩第三小学校 3年 ^{みづら} 三浦 ^{りな} 璃奈さん

「江戸時代の方法で道を測る」

富山県富山市立山室中部小学校 6年 ^{あらかわ} 荒川 ^{ゆうき} 雄紀さん

「くらべてみよう今、昔！岐阜市学校マップ」

岐阜県岐阜市立長良東小学校 5年 ^{ほしの} 星野 ^{ゆみ} 友美さん

「みんなでつなげよう！水道・下水道の未来」

愛知県愛知教育大学附属名古屋小学校 3年 ^{かわさき} 川崎 ^{りほ} 理歩さん

「東灘かるた巡り」

兵庫県神戸市立本山第二小学校 6年 ^{まつばら} 松原 ^{りこ} 莉子さん

「徳島県市町村別ごみの排出量とごみ処理施設と処理状況」

徳島県鳴門教育大学附属中学校 1年 ^{かげやま} 蔭山 ^{にこ} 二瑚さん

「今はなき別大電車の跡をたどって」

大分県大分市立春日町小学校 6年 ^{かたおか} 片岡 ^{ただやす} 忠泰さん

「なぜ川が天井に？！滋賀の天井川を探る地図」

滋賀県竜王町立竜王西小学校 5年 ^{くにおか} 國岡 ^{やまと} 大翔さん

(総務部)

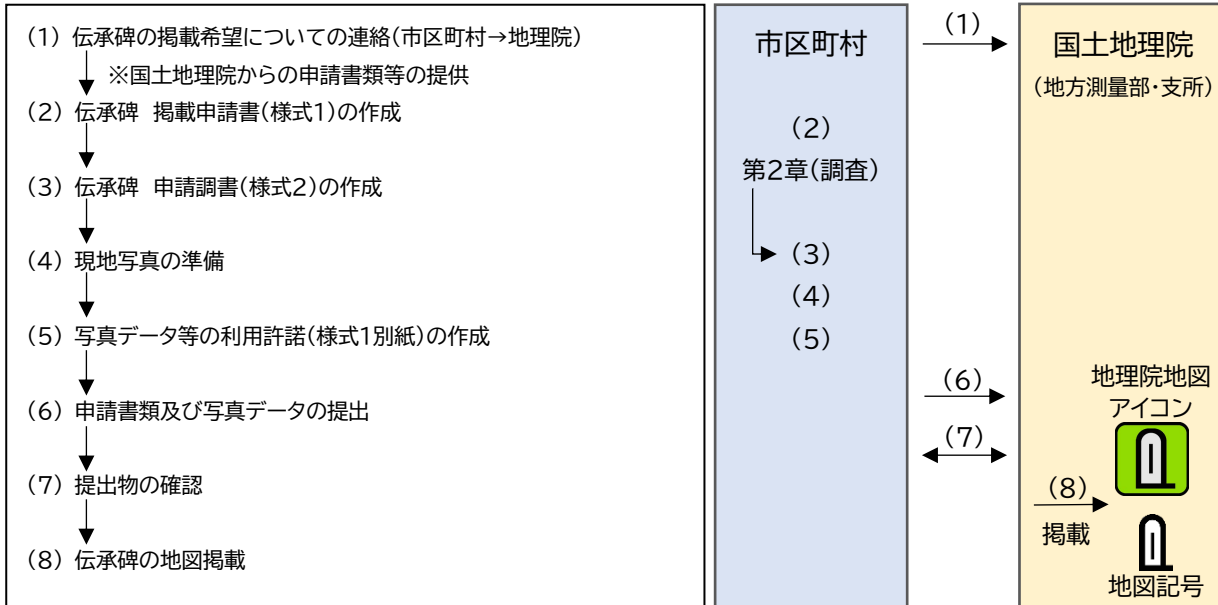
○「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数

令和8年1月26日現在

47	都道府県	672	市区町村	2403	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>)をご覧ください。
 [市区町村の担当者の皆様へ]自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第6版(令和6年3月)」(https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html)をご覧ください。

○12月の報道発表

発表日	件名	担当部署
8日	中標津町と「地理空間情報の活用促進のための協力協定」を締結しました	北海道地方測量部
8日	令和7年11月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
19日	火山土地条件図「神津島」を公開 ～火山の成り立ちから学ぶ火山防災への第一歩～	応用地理部
22日	第29回全国児童生徒地図優秀作品展を開催 ～全国の優秀作品から「国土交通大臣賞」、「文部科学大臣賞」、「審査員特別賞」を決定～	総務部
22日	関西G空間フォーラムin滋賀を開催 ～地理空間情報の高度活用による新たなG空間社会と湖国の発展～	近畿地方測量部
23日	能登半島北部などの活断層図を公開します	応用地理部
26日	令和8年度国土地理院関係予算決定概要	企画部

報道の内容は、国土地理院ホームページ>2025年 報道発表資料一覧(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2025.html>)をご覧ください。

○2月の主な行事予定

月日	行事
1/4～2/15	地図と測量の科学館 企画展「第29回全国児童生徒地図優秀作品展」
1/21～2/13	G空間EXPO2026※オンライン開催
2/20	第250回地震予知連絡会

国土地理院広報は、
国土地理院ホームページ>広報誌>国土地理院広報
(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/>)に掲載しています。

発行 **国土交通省国土地理院**
 Geospatial Information Authority of Japan
 〒305-0811 茨城県つくば市北郷 1 番
 TEL 029-864-6255
 FAX 029-864-6441



連絡先: 総務部広報広聴室
 国土地理院ホームページ
<https://www.gsi.go.jp/>